

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2018.10
No.339

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人(内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています



contents

世界の飢餓の状況
～国連が最新の統計発表～
2018 世界食料デー大会
パキスタン子ども教育支援
フィリピン持続可能な開発
7月豪雨被災者支援報告

写真:コンゴ民主共和国「ブウェトでの収穫」
撮影:鶴若スタッフ (P.7に関連記事)



世界の飢餓の状況

国連が最新統計発表

飢餓人口が増加、8億2,100万人に 1億5,000万人以上の子どもに発育阻害

2018年9月11日に発表された国連の「世界の食料安全保障と栄養の現状」報告書は、世界の飢餓人口の増加は続いており、2017年には8億2100万人、9人に1人が飢えに苦しんでいるとしました。昨年の発表では、武力紛争の拡大と気候の影響により前年より3800万人増えて、飢餓人口8億1500万人となっていました。過去3年間で、飢餓は増加を続け、10年前の状況に逆戻りしています。この数字は、2030年までに飢餓をゼロにするという持続可能な開発目標の達成に一層緊急な対策が必要という警告です。



この国連年次報告書は、降雨パターンや作物生育期に影響を及ぼす気候変動性や、干ばつや洪水等の極端な気象現象が、紛争や景気後退とともに飢餓増加の主要因の一つとなっているとも言っています。

農作物栽培地域における異常気温は、2011年から2016年の長期平均値よりも継続的に高く、過去5年間、猛暑が頻繁に発生しています。また、雨季の開始時期の早まり・遅れ、季節内の不均一な降雨分布など、雨季の特徴も変化しています。農業生産への被害は、食料入手を困難

にすると同時に食料価格の高騰や人々の収入損失を引き起こしています。

本報告書によると、2017年には5歳未満の約1億5100万人の子どもが栄養不良により低身長です。世界の地域別では、発育阻害の子どもの39%がアジア、55%がアフリカに住んでいます。人の手によって生み出され、防ぐことができるはずの紛争。飢えに苦しむ人のうち60%が紛争地域に暮らし、そのうち子どもは1億2200万人に上るといわれています。



国連WFPのサイトから最新の2017年版ハンガーマップをダウンロードすることができます。



2018 世界食料デーでハンガーゼロへの決意を新たに!



飢餓に苦しむ人々がなくなり、世界中のみんなに食料が行きわたるためには、何が必要なのでしょう。飢餓・貧困をもたらす紛争の解決や食料生産の改善、開発途上国の人々のための持続可能な自立のための支援、などさまざまな努力が国際的に行われています。一方、世界で生産された食料の3分の1が食べられていないという事実も重視する必要があります。十分すぎるほどの食料が与えられている工業先進国に暮らす私たちは、支援の手を差し伸べると同時に、食料配分の不平等に目を向けると同時に、自らの生活を見直すことが求められています。



世界食料デー大会が10月から11月にかけて日本全国29ヶ所で行われています。ぜひこの大会でハンガーゼロ現地報告などを通して世界の現状と私たちの生活のかかわりに目を向けてください。
◀左のQRコードから2018年世界食料デー特集サイトにお入りください。

世界食料デー募金にご協力! 郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構「世界食料デー募金」と明記。

Hunger Zero 活動報告

パキスタン・チトラール 少数民族カラーシャ族 子ども教育支援

ハンガーゼロは2012年から、パキスタンのチトラールでホステルを運営して少数民族カラーシャ族の子どもたちの教育支援を行っています。現地でこの働きに携わっているラザロス・サディーク牧師からの報告です。

ホステルで暮らして成長した2人の姉妹に聞く

カラーシャ族は、パキスタンとアフガニスタンの国境近くの山間の谷に住む少数民族で、現在人口は約3000人。独自の文化と宗教を持ち、ほとんどが農業と牧業によって生計を立てています。現金収入が少なく、教育レベルも高くない地域の子どもたちを私たちはトラールの町に招いて教育を受けさせ、衛生的な生活と視野を広げる経験を提供しています。その子どもたちの中で二人の姉妹、アリッシア&プリスキラをご紹介します。姉のアリッシアは3年半、妹のプリスキラは6年、ホステルに住んでいました。

Q ホステルでの生活はどうでしたか

アリッシア：町の学校の勉強は難しかったけれど、ホステルはいつもみんなと一緒にだったし、楽しかったです。特にみんなで一緒に祈る時が、私にとって特別な時でした。

Q つらかったことはありますか

アリッシア：勉強が難しかったことと、体調不良で帰宅したことです。

プリスキラ：特にないけれど…時々家族が恋しくなったことかな。

Q 将来の夢は

アリッシア：先生かな、まだ決めてないけれど。

プリスキラ：お医者さんになりたいです。

Q ホステルの人たちに伝えたいことは

アリッシア：みんなにありがとう、と言いたいです。みんながいつも幸せで災いから守られますように祈っています。

プリスキラ：みんなとってもいい人でした。本当の神様のことを教えてくれて、ありがとう！



Q ハンガーゼロ・サポーターに一言どうぞ

アリッシア：ありがとうございます。みなさんの祝福をお祈りしています。

プリスキラ：日本の人たちが貧しい家の子どもたちを助けてくれることはすごくいいことだと思います。前に訪ねてくれた時に教えてくれた言葉を今も覚えています。「こんにちは」「おはよう」「さよなら」そして「ありがとう」。

現在、アリッシアは10年生、プリスキラは9年生の学生として、カラーシャの学校で学んでいます。それぞれの事情があって、今は村で生活していますが、彼らが望めば再びチトラールのホステルで学ぶ道も開かれています。



左からアリッシア、ラザロス牧師の奥様、プリスキラ

あなたもサポーターになりませんか

サポーターさんの支援が彼女たちの成長を支えました。ぜひ、ハンガーゼロ又はチャイルドサポーターとなって子どもたちや貧困・飢餓に苦しむ人々を応援ください。最終頁に案内があります。また専用ウェブサイトからも申込みができます。



HOLPFI スタッフ（左端に酒井代表、右から3人目に酒井慶子）

最初は「子どもの住民登録」と「婚姻届」

住民の努力で2017年10月から始まったサバン小学校マイ分校。男の先生が一人赴任して、最初のステップとして幼稚園が始まりました。保護者と先生との話し合いの中で、来年度の準備として必要となってきたのが、子どもたちの住民登録と保護者の婚姻届。就学年齢になっていた子どもの中に出生届をしていない子どもがいることがわかり、そのことが最初の課題となりました。学校開設に伴い設立されたPTAと私たちが話し合い、子どもたちの登録の支援を行いました。彼らのなかで一番ハードルが高かったのが「子どもが生まれたら植樹をしなさい」（写真⑥）という法律をクリアすることでした。植樹をするためには植樹用の苗を用意すること、植樹したことを証明する写真を撮る事が必要になってくるからです。苗は自分たちで調達可能です



マイ村の代表者らが移転の手始めに教育省の新設校の担当者⑥を訪ねる

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン

HOLPFI 持続可能

マンヤン・タウブイッド族マイ村

学校開設プロジェクトその後

が、写真はどうにもなりません。ということで、私たちのカメラでその写真を取り、それを申請書に添付する形で、2018年1月末までにその作業を終えました。婚姻届を提出していない夫婦が一組おり、まず婚姻届を出さないと先に進めないと言うことで、そこからということもありました。

学校の正式認可のため校舎移転を決意

次に教育省から、現校舎を正式な学校（本校とは距離が離れており、教育省としては独立した学校として扱いたい）とするには、学校用地が不足していることを示されました。村人はこの提案に関しては、もともと自分たちも移転したいという思いもあったので前向きにとらえ、候補地を探しました。その候補地が学校を建設するための要件を満たしていることを証明する必要があります。本来は政府側の仕事と思われるのですが、今回の学校開設は住民側の提案なので、そちらでやるようにと振られた格好です。予定地が安全かどうか→資源開発省の承認、環境的に問題がないか→環境省の承認、バラングイの承認、法務局による登記簿の確認、を揃えて教育省に申請という形をとります。この手続きを住民に代わって私たちがすることはさほど難しくはありませんが、私たちはこの手続きもリーダーのトレーニングと位置づけ、時間はかかりますが、一緒にやっというと思っています。



お父さんたちが作った手作り教室（現校舎）

な開発のアプローチ

リーダートレーニング 家計簿プロジェクト

持続可能な開発とは人財開発であると私たちは認識して
ます。地域開発という視点で問題解決を進めるに当たり、
住民の方々に部外者である私たちがアプローチするのでは
なく、地域のリーダーに焦点を当てて人々の問題解決の支
援を進めます。

自給自足の生活スタイルにも現金管理のニーズ

関わった当初から「リー
ダーをトレーニングしてほ
しい」との要望があったわ
けですが、今回リーダーと
いうよりは、住民に対して
の財務管理のトレーニング
でした。財務管理と言っても家計簿の延長線上です。自給
自足の生活を送ってきた彼らにとって、生活をする上で現
金の依存度は実はそんなに高くありませんでした。一日1.25
ドル以下が絶対的貧困とされていますが、彼らの年間の平
均収入を見ると現金収入はそれ以下です。彼らの生活は主
に自給自足で成り立っており、現金への依存度は低いです。
しかし少しずつ生活に現金が必要な案件が生まれてきて、
現金管理をしないとイケないのではという認識が高まって
きて、今回の依頼となったようです。これは私たちも学んで
ほしいことであったので学びの場を設定することにしました。



家計簿につけるため計算する参加者

コミュニティ側でトレーニング受講者を選抜

当初、全家族を対象にコミュニティで開催して欲しいと
いうことでした。過去の経験からコミュニティでセミナーを
実施すると、何人かはかならずいなくなります。また二日
以上になると翌日来ない人が結構の数になります。一日仕
事(食べ物を探しに行く)に行かないと、その日の糧が得
られないからです。それで、コミュニティ側で学びの意欲
のある人を選んでいただいて、その人たちを事務所に来て
もらってトレーニングして、学んだ人たちがコミュニティで
教えるという方法をとりました。コミュニティから6人が選
ばれ3泊4日のトレーニングを受けました。選ばれた人は
読み書きが出来る人たちでしたが、書いて管理をするとい
う経験がなかったので、かなり悪戦苦闘の末、計4日にわ
たるトレーニングをとりあえず終えることができました。もっ
とも苦戦したのは仕訳です。使った物がどの仕訳に入るか
など考えたこともない人たちにとっては、かなり大変だった
ようです。

この後、学んだ人たちは半年を目処に学んだ内容をもと
に家計簿をつけます。その記録によって彼らの生活実態が
よりわかるようになり、彼ら自身の今後の計画づくりや問
題解決の資料となることを私たちは期待しています。



自らの収入支出を分析する参加者



HOLPFI の理事たちもかけつけて参加者と昼食交流会

HOLPFI や酒井スタッフへの支援は、JIFH のホームページからできます。HOLPFI 又は酒井指定でお願いします

2018年7月豪雨 被災者緊急支援

緊急支援チームリーダー
伊東 綾

呉・倉敷のボランティアセンターの 運営サポートを通じて被災者支援 地元のキリスト教会が活動を下支え

6月28日～7月8日の集中豪雨は、広い範囲に甚大な被害をもたらしました。

ハンガーゼロ緊急支援チームは、岐阜県美濃加茂市と関市（物資配布）、岡山県倉敷市、広島県呉市（両県共にボランティアベース運営）にスタッフを派遣し（計10名）、地元教会と協力をしながら活動を進めました。

広島県では、4年前の広島豪雨災害を経験している市内の3名の牧師が呉市にいち早く出向き、ニーズを把握し、飲料水の運搬と同時に、ボランティア受け入れの体制を整えて、7月17日「キリスト教会・広島災害対策室・呉ボランティアセンター」（黒坂栄司を派遣）が飲料水の提供、重機による土砂撤去、人力での床下泥だし作業を始めました。岡山県倉敷市では、7月16日より「岡山キリスト災害支援室（伊東綾、向頭要一を派遣）を立ち上げました。国内外の多くのボランティアたちが高梁市、倉敷市真備町を



7月 呉市内の個人宅で床下の泥かきをするボランティア



8月7日 猛暑の中で真備町児童館での活動に参加した多数のボランティア

中心に、ゴミ選別や泥だし、天井板、床下剥がし、高圧洗浄の作業を担ってくれました。倉敷市が県外からボランティアを受け入れるまでの間、住民の方々はご家族や親戚、友人だけで、家具運び出し床板剥がし、泥出しを頑張っておられました。少ない人数で先の見えない作業に疲弊していたところに、岡キ災から大勢のボランティアが来て一気に作業を進める光景をみて、皆さんに安堵の表情が見られました。またボランティアたちとの交流も、被災者にとって希望の一步になったようです。

今回の活動も、ベースオフィスや宿泊場所の提供、ボランティアへの夕食作りなど地元教会の全面的な協力を頂いて行うことができました。作業をするボランティアさんや地元教会の方々、支援金で活動を支えてくださった全国の皆様に心から感謝いたします。

豪雨緊急募金の受付終了

募金額 1,342万7,458円（9月15日現在）

ご協力ありがとうございました

呉ボランティアセンター、岡山キリスト災害支援室
共にボランティア受け入れは9月末に終了しています。
10月以降の活動は、現地にお問い合わせください。

- 呉ボランティアセンター 080-9790-9493
rescue.kure@gmail.com
- 岡山キリスト災害支援室 086-436-6963
ok.kurashiki@gmail.com



岡キ災の活動で学んだこと ハンガーゼロ 安達療平

8月13日から約3週間、岡山災害キリスト支援室（岡キ災）で活動しました。「ボランティアは日本全国のみならず世界中から来てくださっています。各々異なる団体に所属し、文化や言語、参加の動機も違いますが、被災された方々のために心をついに日々活動しておられます。

私が3週間作業させて頂いたお宅の家主さんは、初め我々のことをとても警戒して監視されているようで

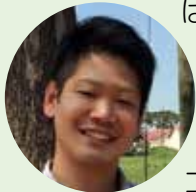
た。しかし作業が進んでいくにつれて、お仕事のこと、家族のこと、ペットの猫のことまで話して下さるようになり、先日はそのお宅で餅つき大会を開くことができるまでに心を開いて下さいました。



岡キ災が最も大切にしていることは、被災者の方々に寄り添うことです。献身的に作業をすることを通して、被災者の方々が励まされ、少しでも明日への希望を抱いてくださればと願って活動しています。

5月から約3ヵ月間、コンゴ民主共和国ハンズ・オブ・ラブ・コンゴのジェローム駐在スタッフのもとで研修を受けていた鶴若仰太スタッフの報告です。

こちらに来てから2ヵ月が経ち、多くのことを学ばせていただいています。



先日、日本大使館で主にエボラ出血熱についての説明を受けました。今までに疑いなども含んでコンゴ民主共和国で58件の症例が見られ、28名が死亡しています。そのうち確実にエボラが原因だとされているのは14件です。エボラ出血熱の死亡率は大体53%と言われているようですが、私がいるキンシャサは感染が確認されたムバンダカからは500～600km離れており、症例はありません。潜伏期間は2～21日で、最後にエボラ出血熱での死亡が確認されたのが6月2日、現在のところ大使館からの情報のアップデートはありません。

エボラウイルス病の病原体はとても弱く、アルコール消毒、石鹸などで死ぬそうです。感染経路は患者の体液（血液、嘔吐物、便、精液）からですが、人の汗からは感染しないと言われています。従って予防法はしっかり手を洗うこと、これに尽きるそうです。

ご存知の通り、現時点ではエボラに対しての効果が証明されている薬剤はなく、日本やアメリカなどが開発中です。治療法は対処療法として解熱剤、点滴を行います。実際にはマラリアの薬や抗生物質を投与するそうです。予防法はとても単純に聞こえま

はじめて肌で感じたエボラ出血熱

すが…。

感染の拡大理由の一つは、病院における不十分な診察、治療です。基本的な感染管理ができていない、治療は点滴のみ（子どもの治療は不可能）、医療従事者、アルバイト（往診）間で感染してしまう、検査が不十分（熱も体温計ではなく手を当てるだけ）などなどです。

もう一つの理由としては、コミュニティレベルにおける不適切な対応です。エボラ出血熱に対する不十分な知識と慣習、文化として遺体は故郷で葬る、その際に遺体を遺族が洗うことになっている、などです。

エボラ出血熱の死因と言え、出血を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、実際には嘔吐と下痢による脱水が多いそうです。（下痢、嘔吐は発症してから2、3日経って80%の確率で、出血は5日以降に10～20%の確率で始まる）。この感染症は適切な対応をすれば感染しないということでしたので、手洗いを徹底したいと思います。



鶴若スタッフは「世界食料デー横浜大会（10月13日）」でコンゴ民主共和国での体験をもとに講演いたします。



「Hunger Zero カレンダー 地球家族 2019」が出来ました！



このカレンダーは開発途上国の現状と「ハンガーゼロ」が直接あるいは間接に支援をしている国々を知っていただくために作成されました。2019年は「生きる」をテーマにFHスタッフ等が撮影した写真を用いています。皆様のご支援によって多くの人々が「生きる」ことに希望を持てるようになってきています、是非続けてのご支援をお願いいたします。

1冊税込1,080円 送料別途要

※お問い合わせ、お申込みは（株）キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区本町1-4-12 NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
（注）ハンガーゼロでは取扱っておりません。

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18ヵ国55のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

北海道地震被災者支援

伊東・黒坂スタッフを派遣

ハンガーゼロは9月13日、北海道胆振東部地震被災者支援のために緊急援助チームリーダーの伊東綾スタッフを北海道に派遣しました。伊東は「北海道キリスト教ネットワーク」(略称・ホクミ



ンの支援対策本部(札幌キリスト福音館に設置)からの要請で事務局運営のサポートにあたりました。またパン・アキモの協力でパンの缶詰約1,600食分をお届けさせていただきました。

ホクミンは、日高町富川にも活動拠点「ホクミン ボランティア富川ベース」も開設してボランティア活動を続けています。希望される方はホクミンのフェイスブックから申し込みください。

【募金にご協力ください】

郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 必ず「2018年北海道地震」と明記。ウェブサイトからクレジットカードによる募金もできます。



子どもたちにクリスマスカードを

送付ご希望の方は、大阪事務所へお送りください。プレゼントの同封は

ご遠慮いただいております。ご理解ご協力をお願いします。

音の鳴るカードは輸送中に破損する可能性がありますので紙製のカードをお勧めします。

(12月以降に到着したカードは2019年に入ってからのお届けになります。新年のご挨拶も歓迎します。)

※皆様を送られたカードを大阪事務所でお受領した通知が必要な方は、封筒などに一言お書き添えください。

【送付先】〒581-0032

大阪府八尾市弓削町3-74-1

チャイルドサポーター事務局



テレビ番組「ライフ・ライン」 10月に近藤総主事が出演

全国13地域で放映されている「ライフ・ライン」にハンガーゼロ近藤高史総主事が出演いたします。番組では、世界の飢餓と貧困をなくすハンガーゼロの団体紹介と海外と国内における具体的な活動内容について紹介が対談形式でわかりやすく行われます。

なお、詳しくは「テレビライフ・ライン」でネット検索して、番組のウェブサイトでご確認ください。

放送日は地域により、10月13日④/14日⑥/21日⑥のいずれかになります。なおハンガーゼロのウェブサイトでもお知らせします。

元阪神マートン氏が関西の地震・台風被災者に励まし

元阪神タイガースのマット・マートン氏が、台風被害を受けた関西地区の被災者を励ますために9月16日に来日。ハンガーゼロは17日行われた3つの催し(小学校訪問、教会での講演会、レストランでのチャリティなど)の応援に安達スタッフを派遣しました。



【マートン氏のコメント】このたびの台風20号、21号及び大阪北部地震で被害を受けた方々に心からお見舞い申し上げます。来日では大阪、西宮で思わず圧倒されてしまうほどたくさんのファンみなさんが私を迎えて下さって嬉しく思っています。わたしたちは大きな困難に直面した際、一人一人の力は微々たるものですが、みんなで力を合わせて歩いていく時に、その困難を乗り越えられると信じています。

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 339号

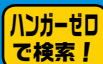
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送ってください。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送ってください。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...4470口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
(広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
(東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター